

## ■ 第1回 仙台市音楽ホール検討懇話会 議事要旨

### I 第1回懇話会の議論の項目整理と論点

○ 第1回懇話会での議論から以下の項目を抽出し、要点を整理した。

#### 1. 検討の前提として踏まえるべき点

- (1) 近年のホール施設等の動向
- (2) 伸ばしていくべき仙台の文化特性
- (3) 解決すべき課題
- (4) 特に取組むべき課題
- (5) 将来の都市の状況の課題

#### 2. 音楽ホールの目的・使命のあり方

- (1) 基本的な設置目的、ねらいの明確化
- (2) 持続可能な仕組みの計画と構築

#### 3. 施設空間のあり方

- (1) 音楽ホール施設のあり方
  - ①ホールについて
  - ②施設全体として
- (2) 施設とまちとの関わりのあり方
  - ①経済的波及効果について
  - ②観光・コンベンションとの連携について
- (3) 仙台の施設ならではのあり方
- (4) 整備計画のあり方

#### 4. 活動・運営のあり方

- (1) 音楽、舞台芸術など実演芸術の振興
- (2) 音楽ホールを核としたまちづくり
- (3) 復興過程で果たした文化芸術の力の発展
- (4) 開館までの期間のあり方

#### 5. 懇話会の役割について

### II 整理項目ごとの意見の要点

#### 1. 検討の前提として踏まえるべき点

##### (1) 近年のホール施設等の動向

(文化芸術は全ての人々が享受し、参加するもの)

- かつて文化、芸術は社会のごく一部の方々を楽しめるぜいたく品のように扱われた時代もあったが、近年、大きく様変わりし、全ての人々のもの、人々がともに生きる絆を形成するものと認識されてきている。

(新しい広場としての役割への期待)

- 劇場・音楽堂に対する地域の人々の見る目、認識、また劇場側の意識も変わってきている。劇場・音楽堂は、人々の共感と参加を得ることによって、新しい広場として機能するといった認識と期待が非常に高まっている。

(まちなかで多様な人々が集い、交流する場)

- 水戸市では2,000席のホールを整備するが、衰退した中心市街地を活性化するための拠点として、公演をやっているときだけではなく、公演がない時も人々が滞留し、人々が集い交流する場として機能するように計画されている。ホールだけではなく、ショップやレストラン、無料で人々が滞留できるソファのあるスペース、さまざまな多目的スペースなど、それらがまちと連続する形で造られようとしている。

(市民のまちに対する意識を変革させる拠点)

- 政令指定都市である川崎市のミュージアム川崎シンフォニーホールは2,000席のホールだが、駅直結で、ラゾーナという非常に大きなショッピングセンターとつながっている。川崎駅周辺の刷新を促した地域の拠点となっている。さらに、開館10年たって、60代、70代の市民が抱く公害のまちといったイメージ、50代、60代の労働者のまちといったイメージに対して、10代、20代の市民は音楽のまちと捉えるようになっていく。シビックプライド、市民の街に対する認識の変化をもたらしている。

##### (2) 伸ばしていくべき仙台の文化特性

(様々な音楽が盛んであり、暮らしに息づくまち)

- 様々な音楽というものが身近に、暮らしの中に息づいている。
- 楽都と認知されてきており、音楽が仙台の大きな魅力の1つといえる。

(市民の主体的な音楽活動は非常に盛んで、誇れるもの)

- 色々なタイプの音楽が本当に豊かに、自主的で、非常に盛ん。仙台の音楽をやっている人のアイディア、センスが非常に新しく、新鮮。仙台で起こっている市民的な音楽活動に大変誇りを持っている。

##### (3) 解決すべき課題

(何十年と全国大会が開けない状態である)

- 吹奏楽や合唱などの全国規模の大会を東北で開催して欲しいといわれても、宮城県、仙台市には実施できる施設がないことから、青森県や岩手県などに引き受けてもらうしかなかった。

**(大型のホール、設備や諸施設が充実したホールがない)**

- 2,000席級のホールがなく、既存施設は舞台設備やバックヤードが今日の水準になく、観客が利用するトイレや憩う場が不足している。

**(仙台は人を呼び込む施設が不足している)**

- 仙台は海外からの旅行者が少ないといわれる。例えば金沢は、金沢21世紀美術館に代表される強力に人を呼び込む施設があり、宿泊して夜も楽しめるまちがあり、新幹線もできている。仙台は人を呼び込む施設が少ない。

**(4) 特に取り組むべき課題****(震災復興過程において文化芸術が果たした役割を継承・発展するべき)**

- 今回の施設は、震災を抜きにしては語るができない。それは神戸の地震を振り返ってみれば兵庫の芸術文化センターに相当するような計画と考えられる

**(5) 将来の都市の状況に対応する****(人口減少・少子高齢化の進展と、グローバルな視点も持つ必要)**

- ホールができる10年後の仙台を考えた場合、東北各県の人口も減り、仙台の人口構成も変わってくる。広域的な役割が一層重要になるであろうが、さらに、グローバルな視点で、海外一円からこのホールを利用するという可能性も出てくるのではないか。

**(世界に向けて開かれた場となる)**

- 劇場・音楽堂は「世界への窓」とも言われる。広域、全国だけではなく、世界に向けて開かれるような場所として構想することが望まれる。

**(地方都市間競争の激化への対応)**

- 10年後、仙台の日本の中での役割、東北での役割は一層重くなっていると思われる。一方で地方都市間競争も厳しくなっていく。そのような環境を認識して、早期に、経済効果の高い音楽ホールができることを願う。

**2. 音楽ホールの目的・使命のあり方****(1) 基本的な設置目的、ねらいの明確化****(国の方向性を踏まえつつも仙台としての方向性を明確にする)**

- 国は、文化芸術振興基本法を制定し、今年、振興がとれた文化芸術基本法への改訂など一定の方向性を示してきているが、それぞれの自治体が国と全く一致するわけではない。市民が期待しているのは、それぞれの地域、自治体の目指す方向の明確化である。

**(街の魅力を高めることなど目的を明確にする)**

- 人をつくる、にぎわいをつくる、交流をつくる、目に見えないけれども、そのまちの魅力を高めるような活動を、新しいホールには担ってもらいたい。
- このような目的を設定すれば、その先どのような活動をしていくのかが見えてくる。

**(2) 持続可能な仕組みの計画と構築****(持続性のために、市民にどのような貢献ができるのかを明確にする必要)**

- 劇場・音楽堂はどうしても大きなお金がかかり、公的な助成・負担が必要な部分がある。それを補ってかつ余りあるような地域の住民、市民の方々への貢献ができてこそ、その劇場が持続的に成り立っていく。

**(目的、運営、継続性、発展性、人材などの課題を検討することが重要)**

- 懇話会に求められていることが、主にホールの規模とか機能あるいは立地条件ということであるが、目的、運営、人材、持続性、サステナビリティということをしつかり議論していなければならない。

**(公演や活動の無いときに何をするのが大事)**

- 2,000席規模のしっかりとしたホールをつくるとすれば、そこで舞台芸術を行うことはとても重要なことである。ただ、それだけではなく、公演しないときに何をするのかと、いうことを考えなければならない。

**3. 施設空間のあり方****(1) 音楽ホール施設のあり方****①ホールについて****(何よりもホールとして優れた施設であることが重要)**

- 音楽、舞台芸術などに関わっている方々のご意見も踏まえ、それぞれの利用に適した性能があり、使い勝手がよいホールとすることが大事である。

**(音響が良いホールは他に沢山あり、それに勝るホール)**

- 音響の良さは大事だが、最近は音響が良い施設は他にもあり、東北を代表する仙台として、それに勝るものを造らなければならない。

**(いろいろなジャンルの公演を可能にするホール)**

- 良い音、良い響きを醸し出すホールであり、いろいろなジャンルの公演ができる。さらに、吹奏楽や合唱などの全国規模の音楽祭・大会が開催できる。

**(多様な音楽や舞台芸術など幅広い活動を支えるホールが望まれている)**

- 市民会議の資料を見ても、仙台の現状に対して、多様な立場からの要請、意見があり、それらをくみ取ると、非常に幅広い活動ができる場所であってほしいという要望が読み取れ、ホールも多機能という性格付けができるのではないか。

**(多様な音楽を支える、新しいタイプのホールが期待される)**

- 仙台のホールは、さまざまな事情で遅れている。新しいタイプの、音楽にとっても、まちづくりにとっても、人々の生活にとっても、非常に何か新しいアイデアのあふれたホールが造られていくことを願う。

**(誰もが身近に、気軽に利用できるホール)**

- 誰もが利用しやすく、享受するだけではなく、市民が舞台に上れるホールが望まれる。

## ②施設全体として

## (まちに開かれ、回遊性を高める施設)

- まちに開かれた、まちな魅力と連続し、まちに開かれたホールをとすることが大切である。これができるると回遊性も高まり、外からの交流人口拡大にも貢献できる。

## (ホールだけではなく、交流の拠点となる施設)

- 市民が集い、様々な交流を広げることができる場となることが望まれ、ホールだけではない人が集まるしかけを持った施設が必要。

## (豊かな時間を過ごせる施設)

- 豊かな時間を過ごせる大型ホールを持った施設となることを期待する。

## (2) 施設とまちとの関わりのあり方

## ①経済的波及効果について

## (東北の拠点となり、集客力のある施設)

- 仙台は、東日本大震災の復興の拠点となる都市であり、仙台市の施設であるとともに東北を代表する施設になってくる。広域から集客をする施設となる。
- 東北を代表する施設、集客力の高い施設とすることを前提に考える必要がある。

## (経済的効果の高い施設)

- 広域集客、集客力の高い施設として、経済的な波及効果が大きくなるように整備することが望まれる。

## ②観光・コンベンションとの連携について

## (コンベンション機能を担う施設)

- 仙台はコンベンション都市としての機能が弱いとも指摘され、このホールがコンベンション機能を担う施設として考えてはどうか。
- コンベンション前後の芸術鑑賞も開催都市の魅力となるので、そのような役割をこのホールが担ったらよいのではないか。

## (観光の視点からの検討する必要)

- 広域からの来街の目的となる施設であり、観光的な視点からの議論を深めていきたい。

## (広域からの観光客の誘引などを計画的に組み込む必要)

- 広域から観光としてこられる方などの来街の動線、街の中での動線などを適切に考えていく必要がある。それにより経済効果の高い施設とすることができる。宿泊を伴えばその効果は高く、宿泊を伴う拠点と考えることが大事である。

## (3) 仙台の施設ならではのあり方

## (音楽の力をまちづくりに活かす場)

- 復興過程で発揮された音楽の力をこれからのまちづくりに活かしていく拠点。

## (音楽の持つ力がホールからも溢れ出すような場)

- 音楽は鳴り出すと直ちに言葉も何もかも超えて、さまざまなものを超えて1つになる力がある。音楽の力と言われているものである。これから考えていくホールは、そのような力が生み出されてくるホール、誰とも結び合える力がそこから生まれてくる音楽ホールでありたいと考える。

## (世界に誇れる仙台らしいホール)

- 祝祭的な活動があり、仙台の季節を感じられるなど、仙台の個性ある活動が展開される。
- 世界に誇れるようなホールであってほしい。

## (4) 整備計画のあり方

## (最新の知恵や技術を活かして整備、運営を)

- ホール整備が遅くなった分、その有利性を活かすことが大事。建築技術、お金の集め方、運営の仕方など、最新の知恵や技術を使って造ることができる。ホールも技術的に可能とのことで、多目的に使えて、かつ音響的にはクラシックなどがしっかりと演奏できるような劇場を造ることが期待される。

## (10年もかからずに、早期整備ができないか)

- この施設への期待は大きいので、10年かからずに、早期建設ができないか。

## (市と県との連携の検討)

- 市と県と連携して、都市間競争のなかでの東北の中核都市仙台の役割に相応しいホールができることを願いたい。

## 4. 活動・運営のあり方

## (1) 音楽、舞台芸術など実演芸術の振興

## (どのような文化芸術活動をしていくのかの計画が必要)

- ハードを造ることは当然にソフト、その中でどのような活動をするかという課題に直結する。何をしていくのかの計画が大事。

## (楽都を音楽だけではなくより広い楽として考えられないか)

- 楽都の拠点という話だが、音楽の楽だけではなく、仙台の特性としても様々な楽が考えられ、より広く文化芸術と捉えてはどうか。

## (文化芸術の認識が広がってきていることを踏まえる必要)

- 従来からの文化芸術振興だけではなく、教育、福祉、観光・産業振興、まちづくりなどと連携した総合的な文化芸術振興、絆の形成、暮らしの文化から頂点的な芸術まで幅広い文化芸術の振興、多様な期待が高まっていることを踏まえる必要がある。

## (2) 音楽ホールを核としたまちづくり

## (文化芸術振興とまちづくりの2つの観点がある)

- 仙台における音楽ホールのあり方については、楽都仙台にふさわしい文化芸術のためのもの、まちづくりの観点から求められるもの、大きく2つの観点がある。

## (音楽ホールはまちづくりの手段)

- 音楽ホールはまちづくりの手段の1つともなる。

## (まちづくりは懇話会で議論すべき大きな課題)

- まちづくりが非常に大きなキーワードである。それがホールの機能や規模、立地にも当然つながる。そこにおいて、このホール施設がどのような役割を担えるのかが、懇話会が議論すべき中心的なことではないか。

**(3) 復興過程で果たした文化芸術の力の発展**

(文化芸術が果たしてきた役割、その情熱をこの施設に込めていくべき)

- 震災復興過程で、文化芸術がこの地域において果たしている役割を再認識したし、地域の人たちが非常に情熱を持って取組まれていた。そのような人々の思いをこの施設に込め、建設され、運営されていくことが大事。

**(4) 開館までの期間のあり方**

(開館までの10年近い期間をどのように過ごすかを計画することが重要)

- 開館までに10年近くかかるとすれば、この10年をどのように過ごすかといいますか、準備するかが重要である。建物の計画は進んでいくであろうが、どのように活動を創っていくのが課題である。

(開館までの10年で、マネジメントしていく人材を育成することが重要)

- この10年間で、このホールをマネジメントしていく人材、音楽人材、演奏する人だけではなく、この劇場をマネジメントしていく人材をどうやって育てていくか、支える市民をどう育てていくかが大きな課題である。この10年を使って、ホールが開館したときに、仙台ないしはアジアを代表するホールとしての運営が持続的にできる準備こそ重要である。

**5. 懇話会の役割について**

(市民の理解を得ながら、着実な議論を踏まえ進めていく)

- 開館まで10年かかるとしても、10年先を見通すのは非常に困難で、誰も考えていなかったことも当然起こる。それを我々は既に体験している。性急に施設を造るのではなく、10年のそれぞれの段階、プロセスに応じた議論をきちんとして、市民の理解を得ながら進むという姿勢は、すばらしいとも言える。

(議論の輪を広げて、市民の期待に応えていく)

- 懇話会としての議論に、いろいろな意見を取り込んで、懇話会の報告としてまとめ、市に投げかけ、この事業をより良いものとする歩みの一歩としたい。

以上